

# 活人形

豊島与志雄

青空文庫



むかし、インドに、ターコール僧そうじょう 正ただ というえらいお坊さまがいました。むずかしい病びょう 氣き をなおしたり鬼おに をおいはらつたり、ときには、死し 人にん をよみがえらしたりするほど、ふしぎな力をそなえていられるという評ひょう ばんでした。そしてたいへん慈じ 悲ひ 深ふか くて、なんでも貧びん 乏ぼう な人たちにめぐんでやり、自分は、弟でし 子わか の若いお坊ぼう さんと二人きりで、大きな、ぼだい樹じゆ のそばの小さな家に、つましく暮くら していました。

そのターコール僧そうじょう 正ただ が、ある日、庭にわ のぼだい樹じゆ のこかげのベンチに腰こし をおろして、休やす んでいますと、みすばらしいなりをした、年とつた男おとこ がたずねてきました。悲かな しそうなおどおどしたようすで、僧そうじょう 正ただ 様さま にお祈いの りをしていただきたいと申まを すんです。

「お祈いの りはわたしの仕事しごと だ。してあげましょう」とターコール僧そうじょう 正ただ は答こた えました。  
男おとこ はしばらくもじもじしていましたが、顔かお をふせていました。

「お礼れい のお金かね をもっておりませんが、ただお祈いの りをしてくださいませうか」

「お祈いの りはわたしの仕事しごと だ。お金かね がなくてもしてあげましょう」を僧そうじょう 正ただ は答こた えました。

男はしばらくして、またいいました。

「ここではございませぬ。わたくしどもの宿まできてお祈りをしてくださいませうか」

「お祈りはわたしの仕事だ。行つてあげましよう」と僧正は答えました。

男はしばらくしてまたいいました。

「わたくしのためにではございませぬ。人間のためにではございませぬ。こわれかけた大きな人形が一つございませぬ。そのためにお祈りをしてくださいませうか」

「お祈りはわたしの仕事だ。その人形のためにしてあげましよう」と僧正は答えました。

男はうれしそうに、眼をかがやかして、僧正の顔をながめていいました。

「ほんとうでございませぬか」

「お祈りはわたしの仕事だ」と僧正はほほえんで答えました。「一文もお金をもらわないでも、あなたの宿まで行つて、そのこわれかけた人形のために、お祈りをしてあげましよう」

大きなぼだい樹じゆのあるターコール僧そうじよう 正せいの家から、一里りばかりはなれた町のはずれに、きたない宿屋やしやがありました。見すばらしい年とつた男は、そこへ僧そうじよう 正せいを案内あんないしてきました。そしてみちみち、僧そうじよう 正せいへ自分の身みの上を話しました。

彼はかれコスモといって、女にようぼう房ぼうのコスモと二人で、諸国しよこくをへめぐっている人形にんぎようつか。

使いでした。天氣のよい日町や村の広場に人をあつめて、コスモが人形おどを踊おどらせ、コスモがマンドリンをひいて、いくらかのお金をもらい、そして方々たがひ旅をしてあるいているのでした。ところが、そういう生せい活かつは時がたつにつれて、はじめほど面白おもしろいものではなくなつてきました。天氣は毎日は晴れるものではありませんし、お金はいつももらえるときありません。それに方々の土地とちも見つくしてしまいました。だんだんもとつてきました。人形もこわれかけました。いつそ故郷こきようへ帰かえつて、そこで百ひやく姓しやうをしてる息子むすこのところのこで、残のこつた生せいがいを送おくろう、とそう二人は相談そうだんしました。

ちようどそのとき、この土地とちにたいへんえらい坊さまがいられるということを聞きいて、二人は、今まで自分たちを養やしなつてくれた人形のため、その坊さまにお祈いのりをしていただいて、そして故郷こきようへ帰かえろうと思つたのでした。

そういう話を、ターコール僧正はにこにこしながら聞いていました。宿屋について、奥のせまい室にはいつていきますと、コスマはほんやり考えこんでいました。

「僧正さまがいらしたよ」とコスモは大きな声でいいました。

コスマはびっくりして飛びあがるようにたつてきて、ターコール僧正を迎えました。

僧正はあまりよけいな口をききませんでした。そしてすぐに尋ねました。

「人形は？」

「はい、これでございます」

コスモとコスマは、室のすみの釘にさがつてる人形のおおいを取りました。赤と黄と緑と青と紫との五色のしまのはいつた着物をつけ、三角の金色の帽子をかぶり、緋色の毛靴をはいて、ぶらりとさがつていました。その帽子や着物や靴はもとより、顔や手先まで、うすぐろくよごれていて、長年のあいだ旅をしてあるいたようすが見えています。

僧正はそれをじつとながめました。

「お祈りをしてあげましょう」

僧正は紫の衣をきました。人形の前に香をたき、ろうそくの火をともしました。そ

してじゆずをつまぐりながら、祈りをはじめました。窓からさしてくるぼーっとした明るみのなかに、香の煙がもつれ、ろうそくの火がちらついて、僧正の祈りの声はだんだん高まつてきました。

人形が、びくりと動いたようでした。はげかかつてうすよこれのしてるその顔に、ろうそくの光がうつつて、ほんのり赤みがさしてきます。眼が大きくなります。今にも口をききそうです。その口元にはもう、やさしい笑みをうかべています……。僧正の祈りの声は高く低くつづきます。

コスモとコスマは、びくりしたような気持で、人形の顔に見入っていました。もう眼をそらすことができないで、いつしんに見入っていました。僧正の祈りの声と、ろうそくの光と香の煙のなかで、人形がうっとり笑いかけたとき、コスモとコスマの眼からは、涙がはらはらと流れました。そして涙を流しながら二人は、人形の顔を見つめていました。

## 三

ターコール僧正のお祈りで生きあがった人形……活人形……。

そういううわさで、町はわきかえるようなさわぎでした。そしてその活人形の踊りを見ようとおもって、町の人はもとより、近在の人まで、美しく着かぎって、町のにぎやかな広場に集ってきました。

見物人たちが美しく着かぎってるのにくらべて、人形使の方はひどく粗末ななりでした。コスモはなんのかざりもない色のあせた黒い服をつけ、まんやかにすりきれたふさのついてる大黒帽をかぶり、木靴をはいていました。コスモは、赤茶けた服をつけて、古いマンドリンをかかえていました。そして広場の中には、うすいむしろがしいてあるきりでした。

けれども、コスモもコスモもいっしょうけんめいでした。その日にやけた年とった顔には、いつにない若々しい元気がうかんでいました。彼は額に汗をにじみしながら、つよい調子でいいました。

「わたくしは、もう人形使をやめまして、故郷に帰るつもりでおりました。この人形も、もう人様にお目にかけないつもりでおりました。ところが、ターコール僧正さまのことをききまして、わたくしどもを長いあいだ養ってくれましたこの人形のため、一度お祈りをしていただきたく考えました。そして僧正さまにお願いいたし



ました。僧正さまはすぐに承知してくださいました。わたくしどもの宿まできてくださいまして、人形のために祈りをしてくださいました。その祈りのさいちゆうに、この人形はいきいきとした顔になつて、わたくしどもに笑いかけました。わたくしは、わたくしどもは、それをはつきり見ました。ほんとうに笑いかけました。生きあがりました。わたくしどもは、ただうれし泣きに泣きました。……そして、人様のおすすめによりまして、この人形を、ターコール僧正さまのお祈りで生きあがつたこの人形を、さいごに一度だけ、みな様にお目にかけることにいたしました……」

それは、いつも人を呼びあつめるこつけない道化たあいさつとは、まるつきりちがつた調子でした。見物人たちはへんな気がしました。そして、コスモが人形をそこへもちだしたのを見ますと、ふしぎでした。古いはげかかった人形の顔が、なるほど、いきいきとしていて、笑つてるようです……。

その人形の踊りが、またすばらしいものでした。年とつたやせたコスモの手であやつられてるとは、どうしても思えませんでした。眼をみひらき、はれやかに笑いながら、だんだんはげしく、しまいにはまるで気でもちがつたように、踊りまわりました。日の光に、金色の三角帽がきらきらかがやき、五色の着物がにじのようにかがやきました。どう

見ても、生きた人形が自分で踊おどつてるのでして、コスモはただそれについてまわつてるだけでした。マンドリンをひいてるコスモも、人形を踊おどらせるためにひいてるのではなく、人形からむりにひかせられてるようでした。

見物けんぶつ人たちは、人形の踊おどりに見とれて、夢ゆめをみてるような気持きもちになり、声をたてるものもなくただうっとりとしていました。コスモもコスモもむちゆうでした。もう息いきもつかせませんでした。そしてとうとう、踊おどりのさいちゆうに、コスモは力がつきてぱったり倒たおれてしまいました。同時に、コスモのマンドリンも、ぷつりと糸が切れました。

人形だけが、はれやかに笑わらいながら、ひとりで立たつていました。

#### 四

コスモとコスモとは、人形を大だい事じにかかえて、故郷こきょうへ帰かえつていきました。たくさんもらったお金を、半分ばかり、ターコール僧そうじよう正へおくりました。

ターコール僧そうじよう正は、お金をたくさんもらつても一文もんも、もらわなかったときと同じように、別べつにふしぎがりもしませんでした。そしてそのお金をみんな、貧乏びんぼうな人たちに

めぐんでやりました。それから、二人の<sup>にんぎょうつかい</sup>人形使のためにお祈りをしてやりました。  
 ターコール<sup>そうじょう</sup>僧正がお祈りをするとき、コスモとコスマとは、<sup>こきよう</sup>故郷への旅をいそいでいました。コスモはいいました。

「ありがたい<sup>そうじょう</sup>僧正さまだ」

「ほんとにありがたい<sup>そうじょう</sup>僧正さまです」とコスマは<sup>こた</sup>答えました。コスモはしばらくしてまたいいました。

「この人形は、わたしたちのためには、<sup>だいじ</sup>大事な人形だ」

「ほんとに<sup>だいじ</sup>大事な人形です」とコスマは<sup>こた</sup>答えました。

そして二人は、うち晴れた日<sup>は</sup>の光をあおいで<sup>こきよう</sup>故郷への旅をいそぎました。



# 青空文庫情報

底本：「天狗笑い」晶文社

1978（昭和53）年4月15日発行

入力：田中敬三

校正：川山隆

2006年12月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 活人形

豊島与志雄

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>